令和6年度林野庁委託事業 【森ハブ デジタル分科会】



морки-нув 令和6年度林業イノベーションハブ構築事業

第1回 デジタル分科会 事業の実施概要

日時 | 令和6(2024) 年7月22日(月) 14:00~16:00

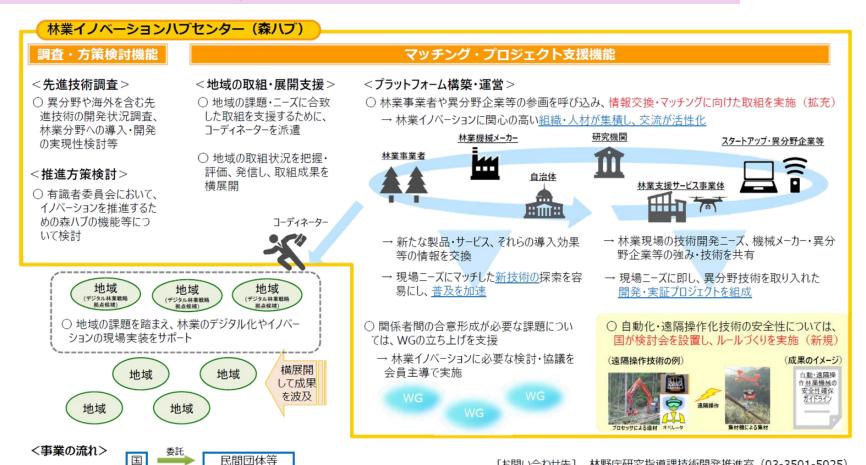
場所|日林協会館 3階 大会議室 Web会議|Webex|を併用



- 1. 林業イノベーションハブセンター (森ハブ)
- 2. 森ハブとデジタル林業戦略拠点のスキーム
- 3. デジ林3地域が森ハブで実施すること
- 4. デジタル林業戦略拠点の伴走支援の流れ
- 5. デジタル分科会等のスケジュール

1. 林業イノベーションハブセンター (森ハブ)

- □ R3年度に、『林業イノベーション現場実装推進プログラム』の着実な推進のため「**林業イノベーションハブ** センター(森ハブ) | を設置した。
- □ R5年度には、林業イノベーションの創出を支援するために<u>「森ハブ・プラットフォーム」の構築・運営</u>、<u>地</u>域へのコーディネータ派遣に着手した。
- □ R6年度では、引き続き「森ハブ・プラットフォーム」の構築・運営、自動化・遠隔操作技術に関する安全性 確保のガイドライン等の作成、地域へのコーディネータ派遣や取組成果の横展開等を実施する。



2024/7/22

2. 森ハブとデジタル林業戦略拠点のスキーム

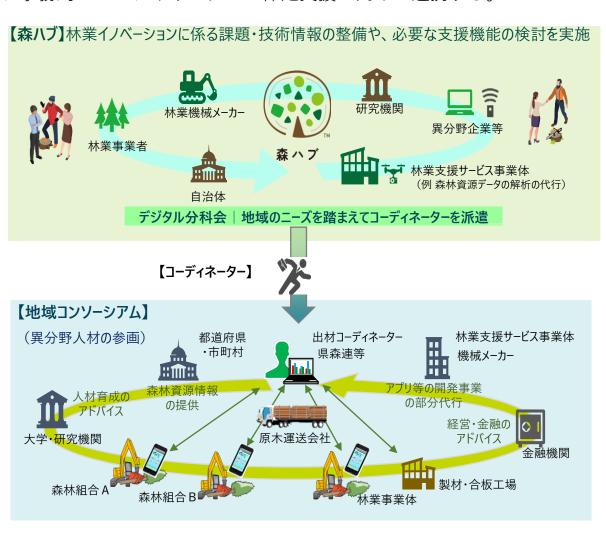
- □ R6森ハブでは、**過年度と同様に「デジタル林業戦略拠点」取組地域(デジ林3地域)へコーディネータを** 派遣する。
- 森ハブでは、デジタル分科会・森ハブ事務局・コーディネーターが伴走支援に向けて連携する。

R6 森ハブの概要 (実施項目)

- 各種委員会の運営・実施
 - 専門委員会
 - デジタル分科会
 - 安全対策検討会
- ロ デジタル林業戦略拠点構築推進事業の伴 走支援・横展開
- 森ハブ・プラットフォームの構築・運営
- 林業機械の自動運転・遠隔操作に関する 安全対策の検討

R6 デジ林の概要 (実施項目)

- 地域一体で林業活動にデジタル技術をフル活用する取組
 - 地域全体で、森林調査から原木の 生産、流通に至る林業活動にフル 活用する「デジタル林業」の実 践・定着
 - 多数のプレイヤーが参加し、地域 全体で自立的に技術やシステムの 改良を行いながら、デジタル林業 を実践



3-1. デジ林3地域が森ハブで実施すること①

- □ デジ林3地域は取り組み内容や実証計画・成果を、デジタル分科会、シンポジウムで報告いただく。
 - 森ハブ事務局は、デジ林3地域に対して助言を行い、地域の発表をよりよくするための支援を行う。
- □ デジタル分科会 | 分科会委員よりデジ林3地域へ指導・助言を行う。
- □ シンポジウム | 参加者がデジ林3地域の発表を聞き、「デジタル林業戦略拠点」の横展開につなげる。

デジタル分科会でのデジ林3地域発表



年間3回程度

会議参加者	・森ハブ(デジタル分科会委員・事務局)・拠点取組地域・林野庁						
	・地域側から森ハブ関係者に対する実証計画・成果等の情報共有						
地域発表の目的	• 分科会委員から地域に対する今後の活動に向けた専門・技術的な助言						
	・他取組地域の情報(状況・知見・ノウハウ)把握						
	・分科会委員が地域に 助言しやすいよう に、発表資料の 作成方向を提示						
事務局サポート	・各地域資料のばらつきを避けるため、視点・粒度を統一するよう助言。						
	・総論の説明よりも 取組成果・目標の詳細・定量的 に記載するよう助言。						

シンポジウムでのデジ林3地域発表



年間1~2回程度

会議参加者	・森ハブに関心のある幅広い分野の者(林業関係者・異業種等)
地域発表の目的	・シンポジウム・フォーラムには、林業の専門外の関係者が多数参加・地域側は、多くの者が取組を理解して関心を持ってもらうよう説明
事務局サポート	• 多くの者が取組の意義・概要・総論を理解できる発表となるよう助言

3-2. デジ林3地域が森ハブで実施すること②

- □ 「デジタル林業戦略拠点」に関する横展開等を行っていくため、レポートの作成やチェックリストによる採点・評価等を行う。
- □ コーディネーター派遣時のレポート作成および「デジタル林業戦略拠点」のチェックリスト評価・採点
 - 森ハブ事務局・コーディネーター間でデジ林3地域の取組状況の情報共有を行う。
 - 「デジタル林業戦略拠点」の取組の優良事例化・共通ポイントの整理

コーディネーター現地派遣時のレポート作成

- ・コーディネーター現地派遣に関して、視察内容・助言を整理。
- 地域側・森ハブ事務局・コーディネーターで状況を共有。

メリット

- 事務局・コーディネーター間での今後の助言の検討に活用可能
- 地域側でのコーディネーターの助言内容の理解の促進

作成手順

- 地域側がレポートを作成して事務局に提出
- 事務局・コーディネーターが修正して、確定



「デジタル林業戦略拠点」のチェックリスト採点

- 現地派遣後に、コーディネーターがチェックリストにより採点。
- 森ハブ事務局・コーディネーターで採点結果・判断根拠を共有。

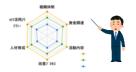
メリット

事務局・コーディネーター間での今後の助言の検討に活用可能

作成手順

- ・コーディネーターがチェックリスト採点を行い、事務局に提出
- 必要に応じて、事務局がコーディネーターの採点を補足





他地域への横展開

4. デジタル林業戦略拠点の伴走支援の流れ

年度区切り(4月)



翌2月~3月

地域側 実証計画作成

- ▶ 地域側が、1年間の実証計画を作成。
- ▶ コーディネーター派遣に際しての希望 (専門性、派遣回数等) も記載



コーディネーター選定

- 森ハブ事務局が、地域側・コーディネーターのマッチングを実施 その際、地域・コーディネーター双方の特性や希望を考慮
- ▶ 地域に派遣するコーディネーターを決定



翌1月~2月 地域側

伴走支援の 1 年の流れ

- ▶ 地域側が、分科会やシンポジウム等で実証結果を報告
- ▶ 森ハブ事務局、コーディネーターが発表内容を事前確認



5月~6月

コーディネーター 地域の実証計画の確認

▶ コーディネーターが、地域の実証計画を確認 計画の改善・実証の進め方等について助言



▶ コーディネーターが、地域の実証結果を確認 課題の要因分析・今後の取組方針等について助言





6月~翌2月

コーディネーター 実証活動等の現地確認

▶ コーディネーターが、現地に赴き実証活動等を確認 実証の改善点の指摘・論点整理等について助言 (現地派遣は2回程度/年を想定)



地域によって、目指す方向性やスタートラインが異なるため、 実施項目・時期はあくまで目安であることに留意。

5. デジタル分科会等のスケジュール

項目 デジタル分科会		令和6(2024)年							令和7(2025)年			
		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			報告資料作成依頼	第1回 7/22		第2回 9/5~7		l 討会 <u>にて実施</u> 全員参加		第3回中旬予定	今年度の 報告予算 ※シンポ 報告網	Ē
・初回打合せ			ı ⁻ ジ林3地域 5/20・22									
コーデ	北海道地域				★ 8/8~9							
ィネータ	静岡地域		ネーター 手続き	★ 7/17		年度内に2回以上、 コーディネータを現地派遣						
 	鳥取地域				★ 8/1~2	1	事務局は、	任意で派 	遣に同行し 	ン、助言等 	を実施 	
下記、森ハブ事務局の流れ(デジ林3地域の関連箇所)												
	専門委員会等 情報共有			第1回 7/30			第2回下旬予定			第3回下旬予定		
	シンポジウム								報告資料 作成依		中旬予定	